

港区立芝浦小学校
令和6年度 授業改善推進プラン

| | 育成を目指す資質・能力 | 全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|---|--|
| 国語 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」について、話し手の目的や自分が聞こうとしている意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら聞くことに課題がある。 ・「書くこと」について、自分の思いや考えを整理して文章に表すことに課題がある。 ・漢字や言語の基礎的内容において、習熟の差が激しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安心して自分の考えを伝えられる学級づくりを大切に、自分の考えや思いについて話す場を日常的に取り入れていく。 ・話し合う際には、話す目的や自分が聞こうとする意図を明確にする。 ・自分の思いや考えを書く活動を取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくしていく。 ・書いた文章を共有することで、語彙を増やしたり、表現方法を習得したりして、自分の思いや考えを文章に表す力を身に付けられるようにする。 ・朝学習の時間等を活用し、習得した漢字を繰り返し練習できるようにする。 ・学級文庫や学校図書館を活用し、読書をする時間を設け、語彙を広げられるようにする。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|---|--|
| 社会 | 経験・知識・資料を基に、「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり、解決したりする資質・能力を育成するとともに表現力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な学びと、実感を通じた理解につながるよう、今まで以上に地域を活用して、見学や交流の機会を増やしていく必要がある。 ・資料を多角的に読み取る知的で楽しい授業を展開し、思考力と表現力を高める必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学年では、体験や資料から分かったことと考えたことをノートやタブレット端末にまとめる活動を行う。 ・高学年では、文章、写真、地図、年表など様々な資料に触れる時間を設け、考えたことを記述・交流させることで表現力を高める。 ・今年度の校内研究が「社会科・生活科」であるので、校内研究を通して教師の学びを深める。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|---|---|---|
| 算数 | 見通しをもち、筋道を立てて考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章題で、具体的に場面を捉え、正しい立式をすることに課題がある。 ・ものさし、三角定規、コンパス、分度器などを正しく使いこなし、作図することに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・低学年のうちから、式、図、数直線など、数学的な表現方法を意識的に取り入れることで、正しく立式できるようにし、表現する力も養っていく。 ・道具を正しく使えるよう、既習の道具は繰り返し使う時間を設ける。3年生以上は、習熟度別の学習を行うことで、既習の内容の定着を図っていく。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|--|--|
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しみ、理科の見方や考え方を働かせながら活動することを通して、理科の基本的な知識や技能を身に付けさせる。 ・体験的な活動を多く取り入れることにより、楽しみながら観察や実験を行うことを通して、問題解決の力を身に付けることができるようにする。 ・上記の2点を目指すための科学的な土台として、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着が不十分なため、結果や考察等の記入の際に、理科の用語を正確に理解した上で、使いこなす(表現する等の言語化)ことに課題がある。 ・知識のみが先行し、既習事項や生活経験を基に予想を立てたり、授業内における実験の結果を踏まえて考察をしたりすることに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「正しい用語」を使用すること、「事象を正確に言語化し伝えること」に課題が見られるため、特に国語科との教科横断的な学習を取り入れ、理科的な事象を正しく捉え、表現することができるようにする。 ・今年度より教科書に二次元コードが多数導入されたことも踏まえ、A区分はもちろん、特にB区分の領域について、動植物との関わりや、川の流れ、天文等、実際の体験ができない単元を中心に、ICTを効果的に活用しながら指導を進めるようにする。 ・教科書で扱う内容は、既に「知っている」児童も多数いるが、知識先行ではなく、問題解決の流れを丁寧に扱いながら、身の回りの自然と児童が触れ合う計画を立て、指導・支援を行う。 |

| | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
|----|--|--|--|
| 生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 ・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりなどに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた活動には楽しんで取り組むが、更に「もっとこうしたい。」と思いや願いの基、自ら調べたり工夫して表現したりして主体的に活動することについては課題がある。 ・気付いたことを分かりやすく表現し、友達と伝え合うことに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・経験を想起させることで、その知識を基にして、知りたいことや、やってみたいことなどを主体的に考えさせる。 ・具体的な体験や交流等の直接関わり合う活動を通して、児童の思いや願いが更に膨らむように、学習を展開していく。 ・幼稚園や保育園等での経験やこれまでの生活経験を想起させたり、共通の体験をさせたりして、知っていることや気付いたことを伝え合う場を多く設定し、表現の仕方や伝え方を指導する。 |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 音楽 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽に豊かに関わる資質・能力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表したい音楽表現をするための学年に応じた技能の定着度に課題がある。 ・思いや意図をもつことやそれを言葉や演奏で表現することに課題がある。 ・協働して音楽活動をすることに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた技能が確実に定着するよう、ねらいを明確にして常時活動を行う。 ・題材に応じて音楽を形づくっている要素を精選し、児童がそれを根拠に思いや意図をもてるようにする。 ・適切な言葉を選択する、他者の考え方や感じ方に触れるなど段階的に指導する。 ・友達とコミュニケーションを図りながら音楽表現をしたり聴いたりすることにより、互いのよさや違いを認め合えるようにする。 |

| | | | |
|----|---------------------------------------|---|---|
| 図工 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | 互いの表現のよさを認め合い、学び合う場を生かし、資質・能力の育成を目指す。 | 色や形から自分のイメージをもち、主体的に活動を展開することができている。しかし、多様なイメージを関連付けたり、イメージを表現に結び付けたりする力に課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動のプロセスをじっくりと味わったり、友達の作品の美しさや面白さを味わったりする能力を高めていく。 ・児童の実態を把握し、個々の児童のもつ資質・能力を高める題材を開発し、児童への共感を大切にした指導の工夫を続けていく。 |

| | | | |
|----|---|--|--|
| 家庭 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | 家族や家庭、衣食住、消費生活や環境などについて、日常生活に必要な知識、技術を身に付け、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する。 | 基礎的な内容を理解し、実践しようとする意欲はあるが、学習や実習を振り返り、課題を見つけて次の課題に向かい、発展させようとする力に課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住や家族の生活等の家庭生活に関係する学習においては、調理、製作等の実習や観察、調査、実験等の実践的、体験的な活動を可能な限り取り入れる等、実感を伴って理解する学習を展開する。 ・実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れる。 |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 体育 | 育成を目指す資質・能力 | 新体力テスト、学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | 主体的・対話的で深い学びを通して運動や健康に関する自己の課題を見付け、すすんで課題を解決できる力を倍う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「握力」の数値がほとんどの学年で都平均を下回っている。 ・「反復横跳び」「立ち幅跳び」など、瞬発力を要する運動の数値が多くの学年で都平均を下回っている。 ・運動が好きで得意だと感じている児童と、運動経験が少なく、自分の体の動かし方、基本的な運動技能が理解できていない児童との二極化が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボルダリングやのぼり棒、雲梯、鉄棒など、器械運動に充てる年間指導時数を増やす。 ・陸上運動の学習の際に、その主たる運動のみではなく、練習方法を提示したり、その練習を実践したりして、適切な技能形成が培われるようにする。 ・マラソンタイムや長縄週間の活動を通して、児童の運動機会を確保し、運動に親しめるようにする。 |

| | | | |
|----|--|--|--|
| 国際 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 世界の言語や文化に興味をもち、多様性を尊重する心を育む。 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言葉の働きについて理解を深めさせ、自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション能力を育成する。 | <p>低学年のうち興味・関心が高く英語を話そうとする児童が多い。しかし、高学年になるにつれて、主体的に英語を話そうとする児童が少なくなる傾向がある。間違っているかもしれないという自信のなさや恥ずかしさが原因であると考え。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 歌やチャンツ、音声と文字の学習を取り入れ、楽しみながら英語の表現に慣れ親しませる。 NT とスモールトークを行い、やり取りの例を見せる。その後、児童とのやり取りを多く取り入れる。児童同士がペアやグループで話し合う活動を設定し、全員が英語を発話する時間を十分に確保する。 英語を話したくなるような目的、場面、状況を設定し、相手意識をもってコミュニケーションすることの大切さや楽しさを実感させる。 |

| | | | |
|----|--|---|---|
| 道徳 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <p>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 多数派の考えに流されてしまい、自分の考えをもつことが難しい児童が見られる。 自分自身を振り返る際に、過去の過ちを認められず、今後の生活につなげることが難しい児童が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 主題に対する児童の興味や関心を高めるために、問題意識をもたせる導入を行う。 児童の実態と教材の特質を押さえた発問を行う。 教材に描かれている道徳的価値に対する児童一人一人の感じ方や考え方を生かして、物事を多面的・多角的に考えることができるようにする。 児童が自分との関わりの中で道徳的価値を理解するなど、自己を見つめる学習を多く取り入れる。 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたりすることなど、これからへの思いや課題について考える学習活動などを行う。 |

| | | | |
|------|--|---|---|
| 特別活動 | 育成を目指す資質・能力 | 学級活動、学校行事等の課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <p>望ましい集団活動を通じて、人間関係を形成する力や参画する力を育成する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の経験等が教員・児童ともに少なく、計画・実践・振り返り、改善のサイクルで学習が進んでいないことが多い。 学級活動において、「学級や学校における生活づくりへの参画」についての授業が多く、「生活や学習への適応、自己の成長及び健康安全」や「キャリア形成と自己実現」の内容が計画的に行われていないことが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童主体で活動や行事を行えるよう指導する。 活動を意欲的に取り組むために、計画的にPDCAサイクルを行えるように計画・指導する。 |

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| 総合的な学習の時間 | 育成を目指す資質・能力 | 学習評価等に基づく課題 | 資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫 |
| | <p>探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするための資質・能力を育成する。</p> | <p>もっている知識量が多く、興味のあることに積極的に取り組むことはできるが、すすんで課題を見付けて解決したり、知識を学習活動や生活に生かしたりする力に課題がある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域も含めた協働的な学習活動を重視する。 ・探究の学習過程(課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現)が繰り返されるような単元づくりを行う。 ・教科との関連的な指導を行う。 ・年間指導計画を基に、今年度の児童の実態に合わせた活動内容に改善していく。 ・単元で活用した資料や情報、指導案などは、まとめて次年度に引き継ぐ。 |